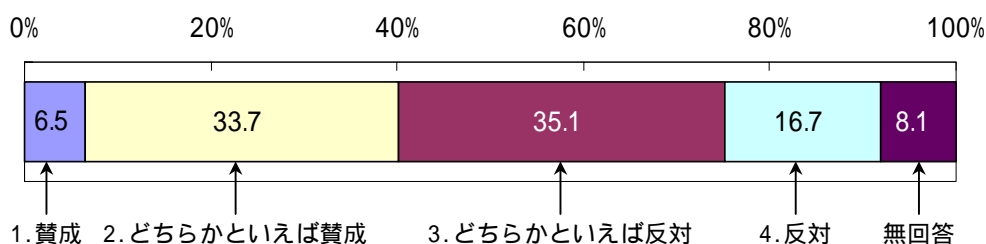


4 男女共同参画について

問 26 「男は仕事、女は家庭」という性別による役割分担の考え方をどう思いますか？ 対象数 = 1,252

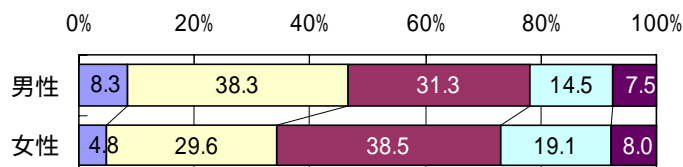


「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」をあわせると、4割の人が賛成と回答しています。一方、「3. どちらかといえば反対」「4. 反対」をあわせると、半数以上の人が反対と回答しています。

【性別】

男性より女性の方が、「3.」「4.」の性別による役割分担を反対とする比率が高く、6割近くに及んでいます。

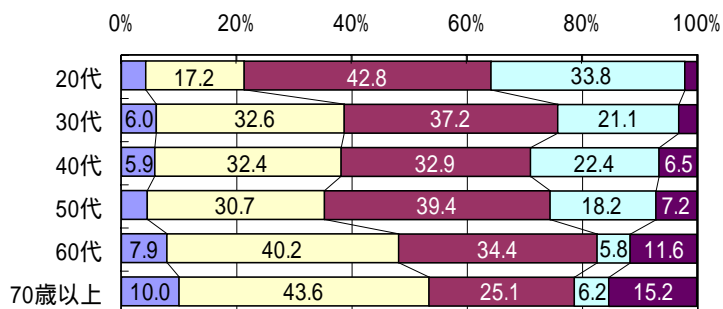
男性は、賛成と反対がほぼ同じ比率となっています。



【年代別】

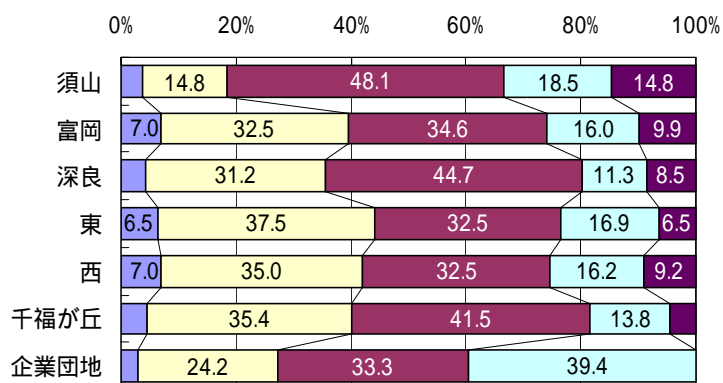
年齢が高くなるにつれて、「1.」「2.」の性別による役割分担を賛成とする比率は高くなる傾向にあり、60代 48.1%、70歳以上 53.6%となっています。

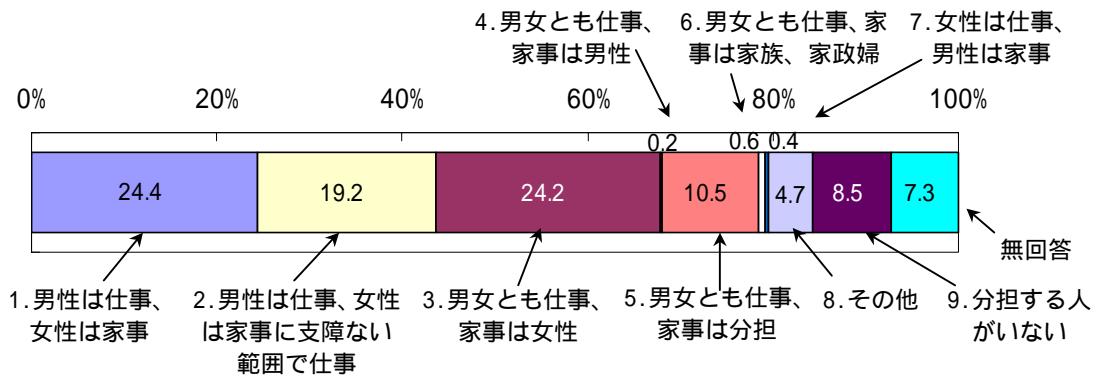
一方、20代では、「3.」「4.」をあわせた反対は 76.6%と非常に高くなっています。



【地区別】

他地区に比べ、須山地区と企業団地で、「3.」「4.」をあわせた反対の比率が高い傾向にあります。



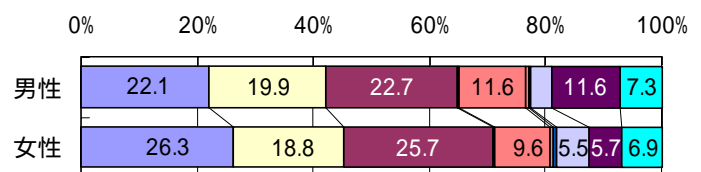


「1.男性は仕事、女性は家事」が最も高く 24.4%、次いで「3.男女とも仕事、家事は女性」24.2%、「2.男性は仕事、女性は家事に支障のない範囲で仕事」19.2%となっています。

一方、比率が1%未満の低いものとしては、「4.男女とも仕事、家事は男性」「6.男女とも仕事、家事は家族、家政婦」「7.女性は仕事、男性は家事」があげられます。

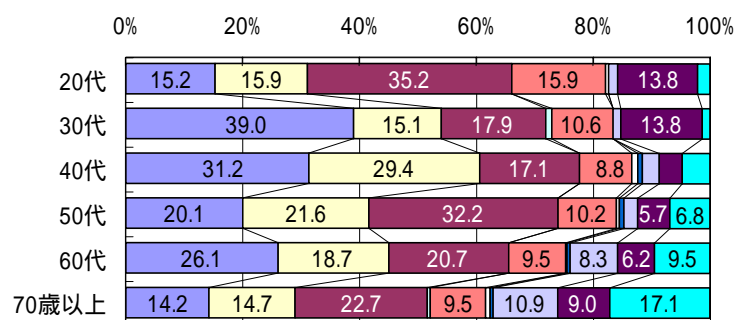
【性別】

「1.」「3.」で、男性より女性のほうがやや高い比率となっています。



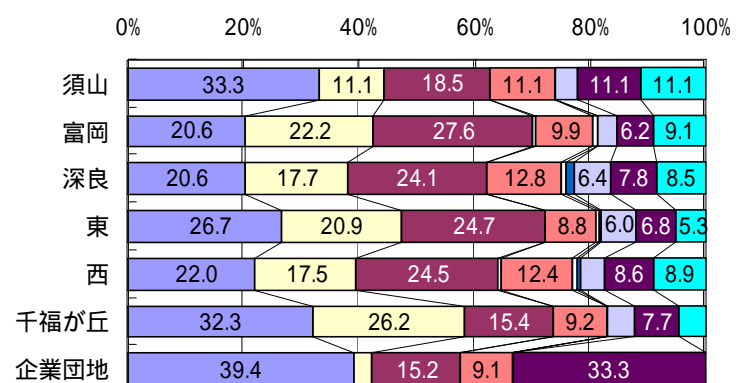
【年代別】

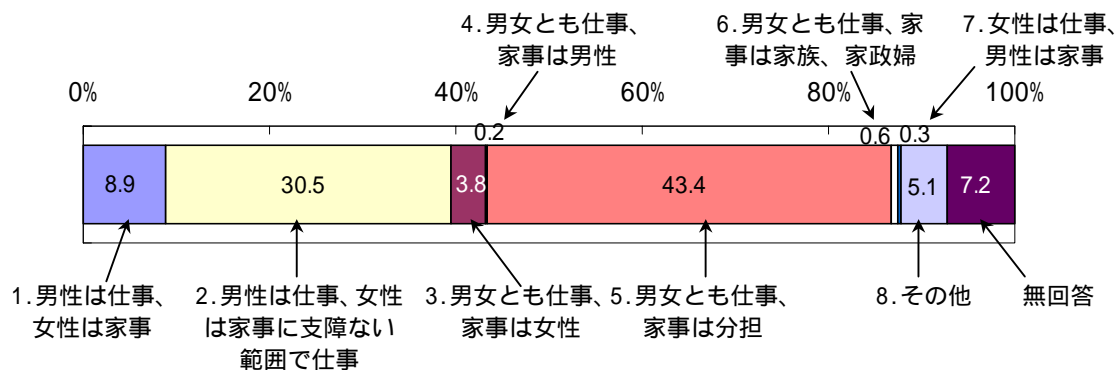
30代、40代の子育て世代では、「1.」が高く、専業主婦率が高くなっています。50代になると「1.」が低くなり、「3.」が32.2%と女性の就業率が高くなっています。



【地区別】

須山地区、千福が丘、企業団地では、「1.」が高い傾向にあります。また、千福が丘では「2.」も高く、「1.」「2.」をあわせ6割近くに及んでいます。



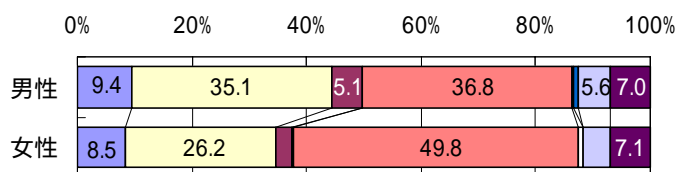


実際の役割分担では1割程度であった「5. 男女とも仕事、家事は分担」を望ましい役割分担とする人が最も多く、4割以上を占めています。

一方、実際の役割分担では24.2%と最も多かった「1. 男性は仕事、女性は家事」を望ましい役割分担とする人は、1割未満となっています。

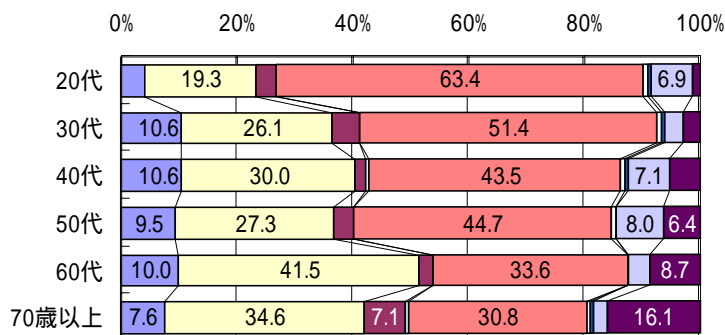
【性別】

女性の約半数が「5. 男女とも仕事、家事は分担」と回答しています。



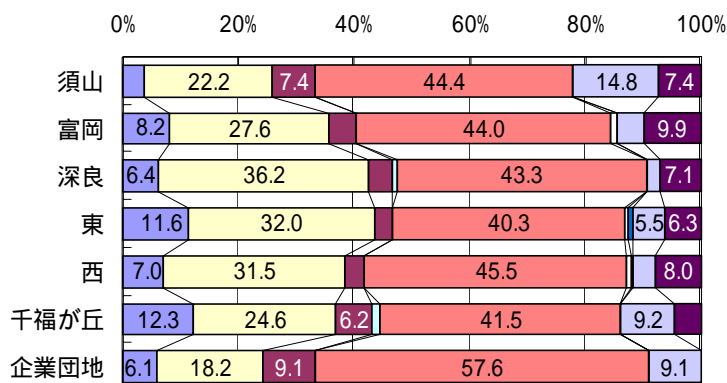
【年代別】

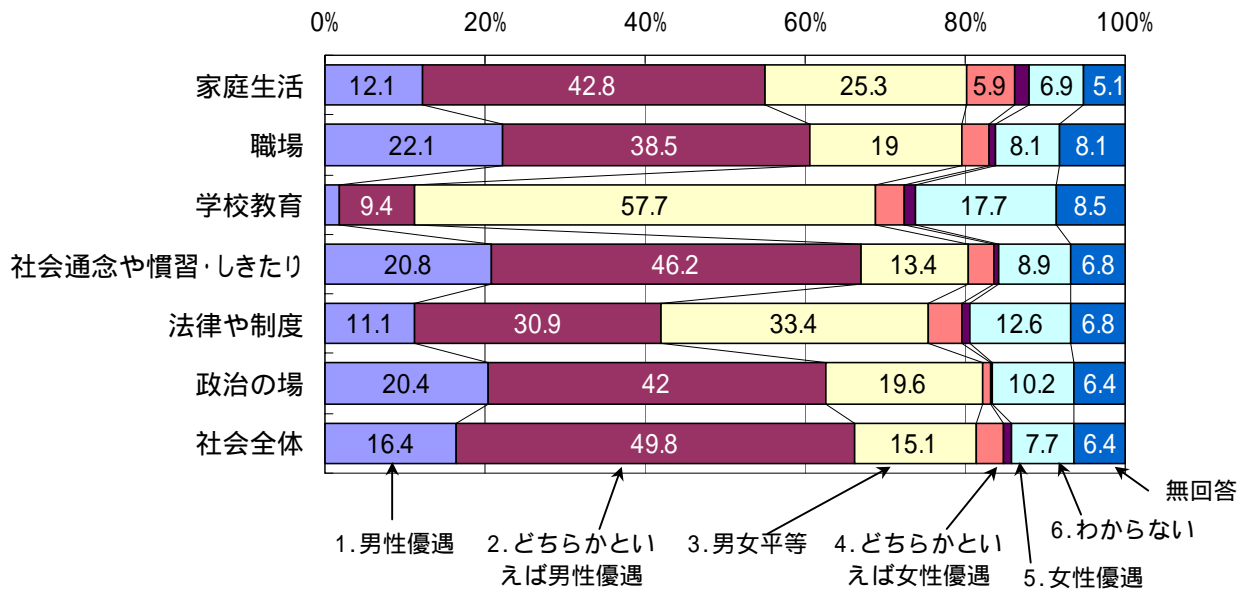
若年層ほど、「5. 男女とも仕事、家事は分担」が高く、特に20代では6割以上となっています。



【地区別】

企業団地では、「5. 男女とも仕事、家事は分担」が高い傾向にあります。

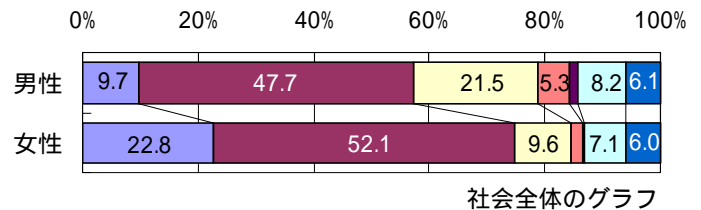




学校教育の分野では、半数以上の方が「3.男女平等」と回答していますが、残りの全ての分野で、「1.男性優遇」「2.どちらかといえば男性優遇」をあわせた比率は高く、特に、社会通念や慣習・しきたり、社会全体、政治の場、職場では6割を超えています。

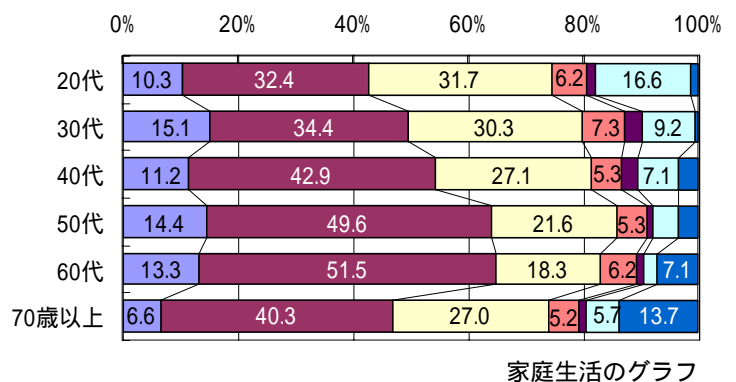
【性別】

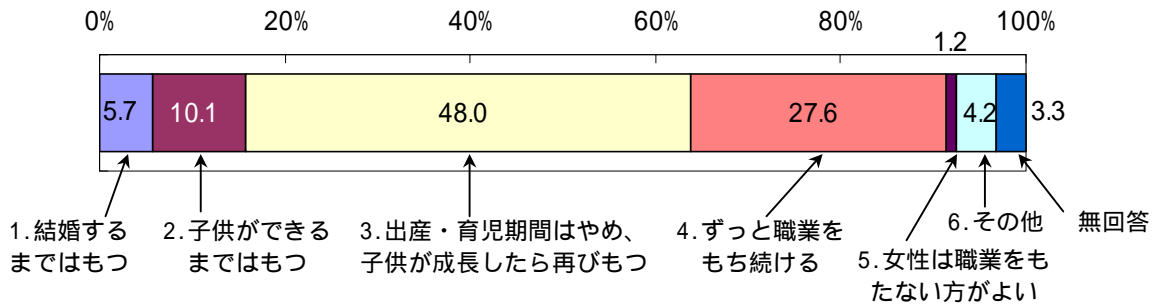
女性は、全ての分野で「1.男性優遇」が高くなっています。
中でも、社会全体については、「1.」「2.」をあわせた比率が、女性では7割を超えています。



【年代別】

家庭生活について、若年層では「3.男女平等」が約3割であるのに対し、50代、60代では2割と低い傾向にあります。



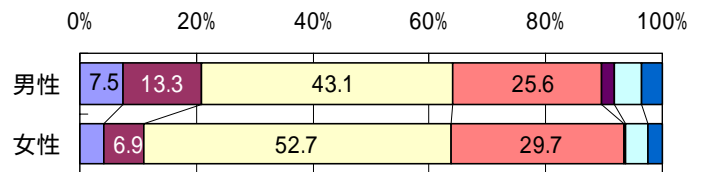


「3. 出産・育児期間はやめ、子供が成長したら再びもつ」が最も高く 48.0%、次いで「4. ずっと職業をもち続ける」27.6%となっています。

男女共同参画プラン（H15）策定時の市民意識調査における同設問では、「3.」57.7%、「4.」18.2%であり、職業をもち続けた方がよいと考えている人が多くなっています。

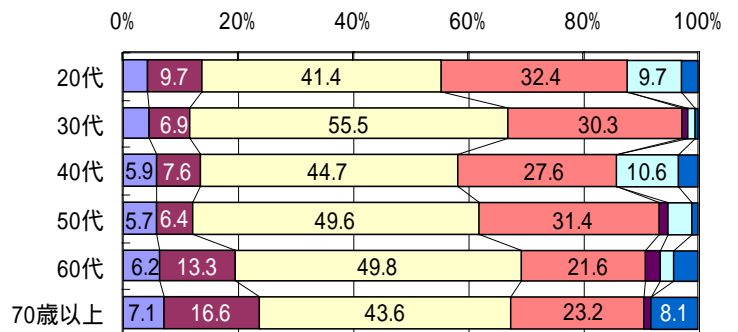
【性別】

「3.」「4.」をあわせた比率が男性では7割弱、女性では8割強となっており、女性の多くが、子育てを配慮しつつ何らかの形で職業をもった方がよいと考えている人が多いことがうかがえます。



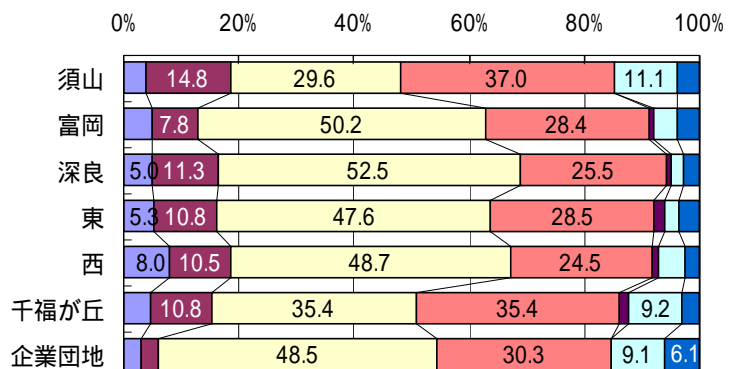
【年代別】

60代、70歳以上の高齢層では、「1.」「2.」が高くなっています。一方、子育て世代の30代では、「3.」55.5%と最も高く、再び職業をもつことを望んでいる人が多くなっています。

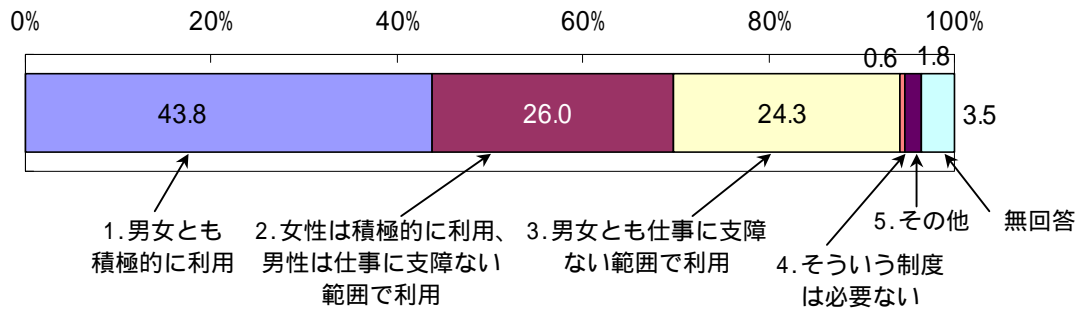


【地区別】

須山地区、千福が丘では、「4. ずっと職業をもち続ける」が高い傾向にあります。



問 31 仕事を持つ人が子育てや介護のために利用できる「育児休業制度」「介護休業制度」がありますが、この制度の利用について、あなたのお考えに近いものはどれですか？ 対象数 = 1,252

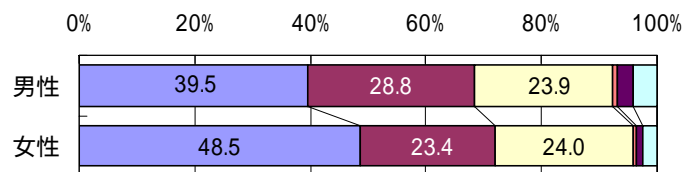


「1.男女とも積極的に利用」が最も高く43.8%、次いで「2.女性は積極的に利用、男性は仕事に支障ない範囲で利用」26.0%、「3.男女とも仕事に支障ない範囲で利用」24.3%となっています。

男女共同参画プラン（H15）策定時の市民意識調査における同設問では、「1.」42.6%、「2.」20.2%、「3.」31.6%であり、育児・介護休業制度を積極的に利用していくという比率は高まっていることがうかがえます。

【性別】

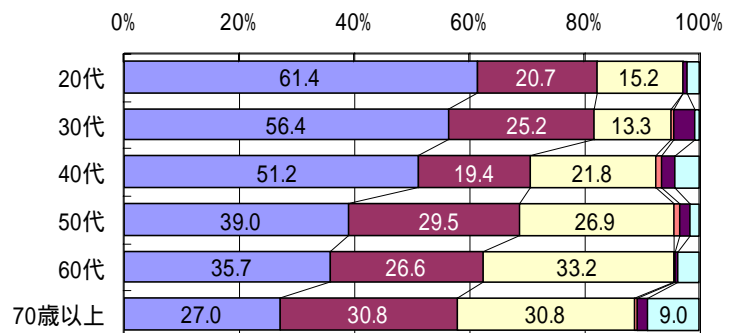
女性では、男女とも積極的に制度を利用した方がよいとする「1.」が半数近くに及んでいます。



【年代別】

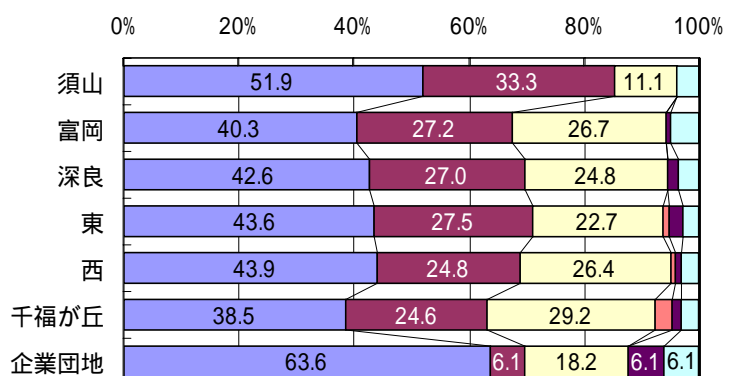
若年層ほど、「1.」が高く、20代では61.4%となっています。

一方、高齢層ほど、仕事への影響を考える人が多く、「2.」あるいは「3.」が多くなっています。



【地区別】

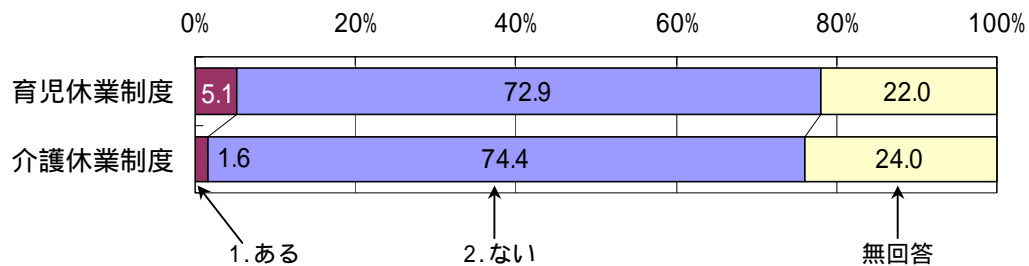
須山地区、企業団地では、「1.」の比率が高くなっています。



問 32 職業を持っている方（過去に持っていた方も含みます）のみお答えください。

「育児休業制度」「介護休業制度」を利用した経験がありますか？

対象数 = 1,252

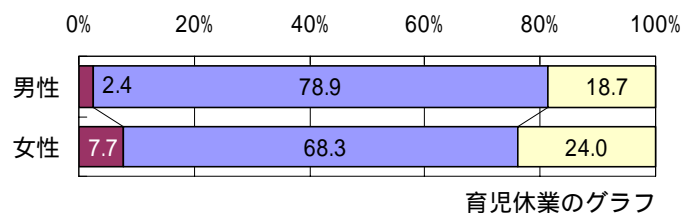


育児休業制度、介護休業制度ともに、利用した経験が「1.ある」と回答した人はわずかで、7割以上の方が利用した経験が「2.ない」と回答しています。

また、無回答の中には、「利用したくても利用できる職場環境ではない」と記述している人も含まれており、制度のあり方を問う意見も多くみられます。

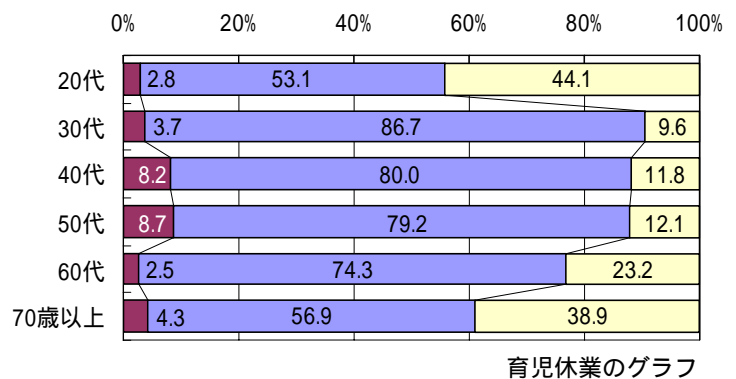
【性別】

育児休業制度の利用は、女性の方が多く7.7%、男性は極わずかで2.4%となっています。



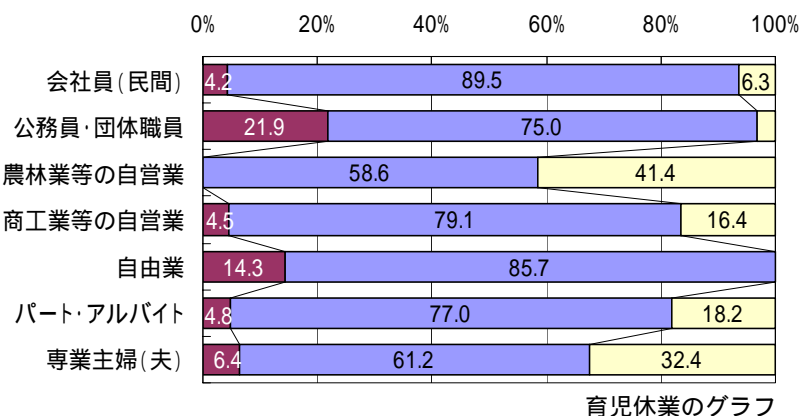
【年代別】

育児休業制度の利用については、50代8.7%が最も高く、次いで40代8.2%となっています。



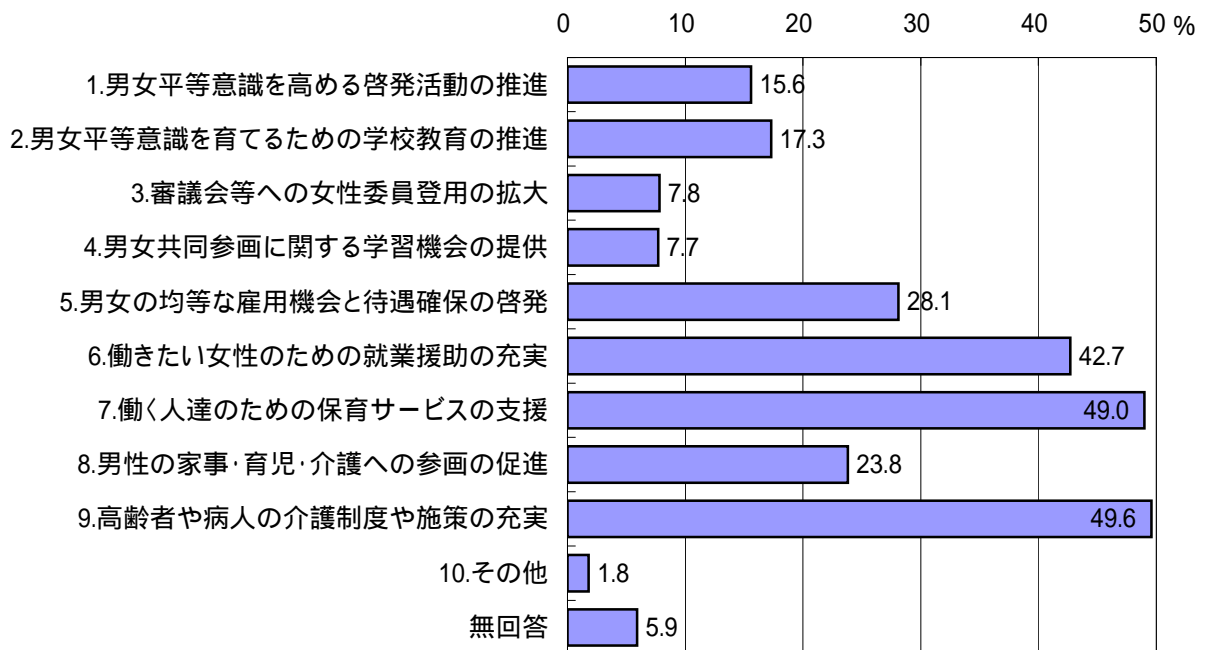
【職業別】

育児休業制度の利用については、公務員・団体職員21.9%、自由業14.3%が高い傾向にあり、職場等によって、制度の利用しやすさに差がみられます。



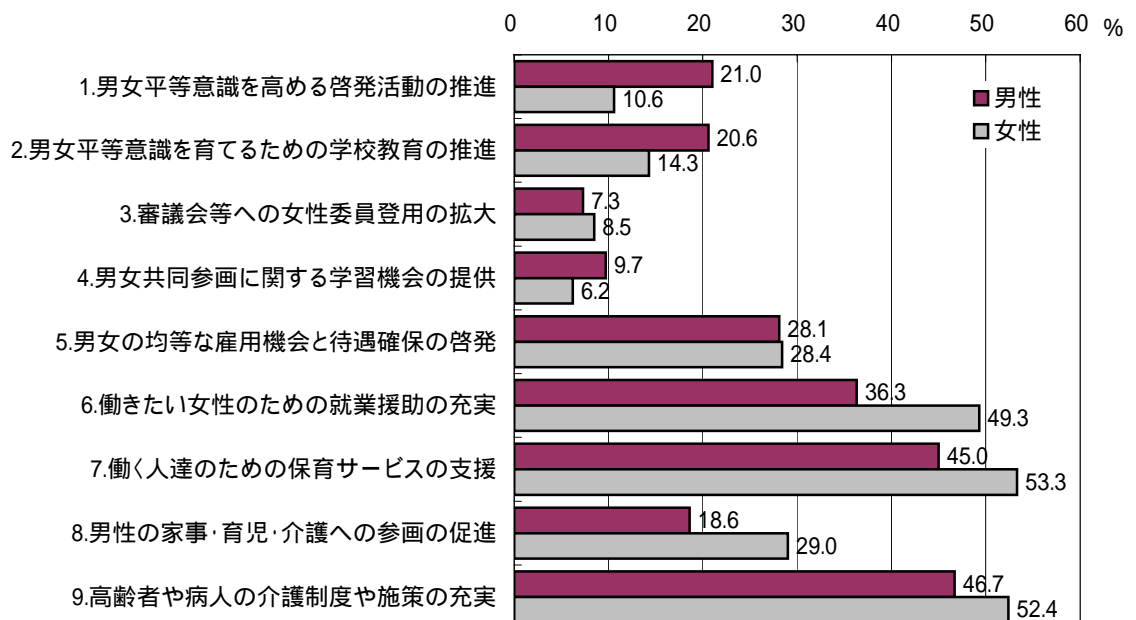
問 33 男女共同参画社会に向けて、今後、行政が特に力を入れるべきことは、次のうちどれだと思いますか？

対象数 = 1,252



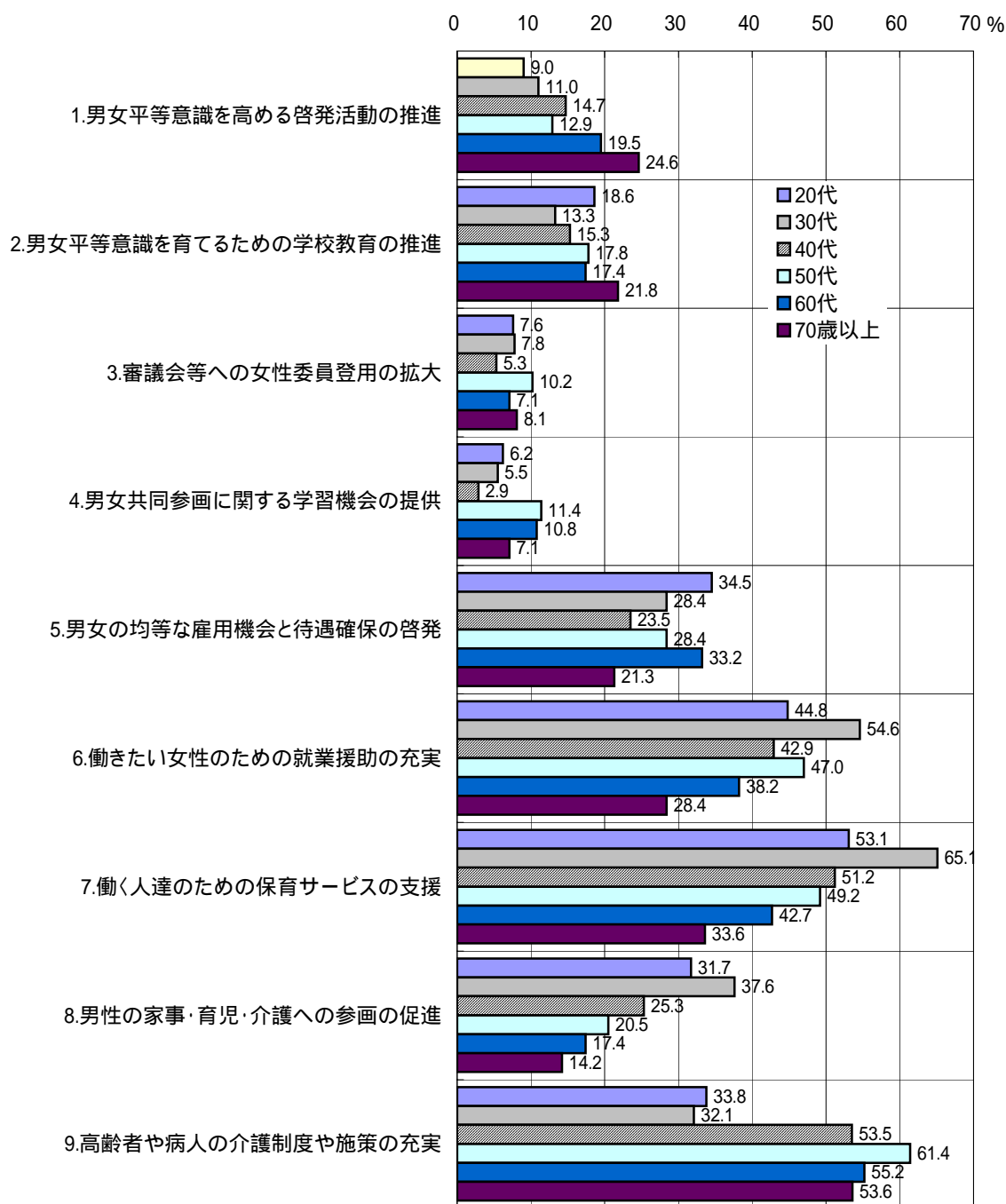
「9.高齢者や病人の介護制度や施策の充実」が最も高く 49.6%、次いで「7.働く人達のための保育サービスの支援」49.0%、「6.働きたい女性のための就業援助の充実」42.7%となっており、働きやすい環境づくりが求められています。

【性別】



男性が「1.啓発活動の推進」「2.学校教育の推進」といった意識の推進をあげた人が多い反面、女性は、「6.働きたい女性のための就業援助の充実」「7.働く人達のための保育サービスの支援」「8.男性の家事・育児・介護への参画の促進」「9.高齢者や病人の介護制度や施策の充実」といった具体的に取り組んでいく上での課題をあげた人が多くなっています。

【年代別】



年代による差が顕著なものは、「6.働きたい女性のための就業援助の充実」「7.働く人達のための保育サービスの支援」「8.男性の家事・育児・介護への参画の促進」で、子育て世代の30代が最も高くなっています。また、「9.高齢者や病人の介護制度や施策の充実」は、40代以上で高く、50代が61.4%と最も高くなっています。